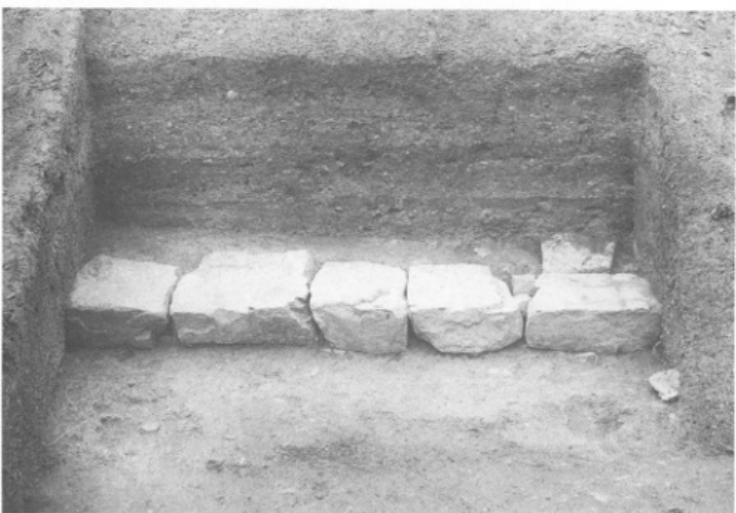




D地点 第2トレンチ 列石と版築盛土



D地点 第3トレンチ 列石と版築盛土

図版第10



D地点 第1トレンチ 列石折部



D地点 第1トレンチ 列石を覆う版塗盛土

図版第11



D地点 上段のトレンチ群



D地点 第13トレンチ 鞍部へ向う上段掘の溝

図版第12



E地点 第3トレンチ 集石



G地点 露出列石



H地点 第1トレンチ 列石と版築盛土



H地点 第2トレンチ 列石を覆う版築盛土

図版第14



H地点 第3トレンチ 列石



H地点 第4トレンチ 列石



H地点 列石を内蔵する下段と背後の上段（防風林背後）



H地点 下段平坦部(手前)と角を描く上段(裾に溝)

図版第16



H地点 第8トレンチ 下段平坦部の溝



I地点 第1トレンチ 地山削出しの上段壁面

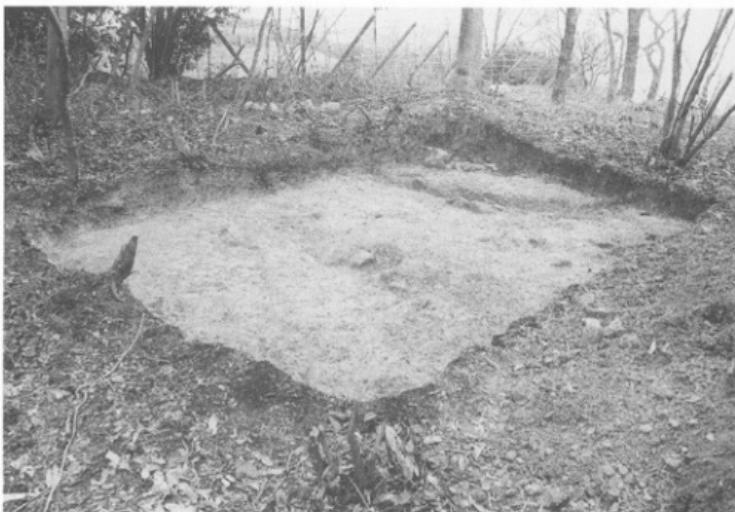


I 地点 第2トレンチ 段状部間の窪み(左手前)と地山削出の頂上平坦部



I 地点 第3トレンチ 頂上平坦部と土壤1

図版第18



J地点 第1トレンチ 頂上平坦部と弧状溝



K地点 第1トレンチ 石組

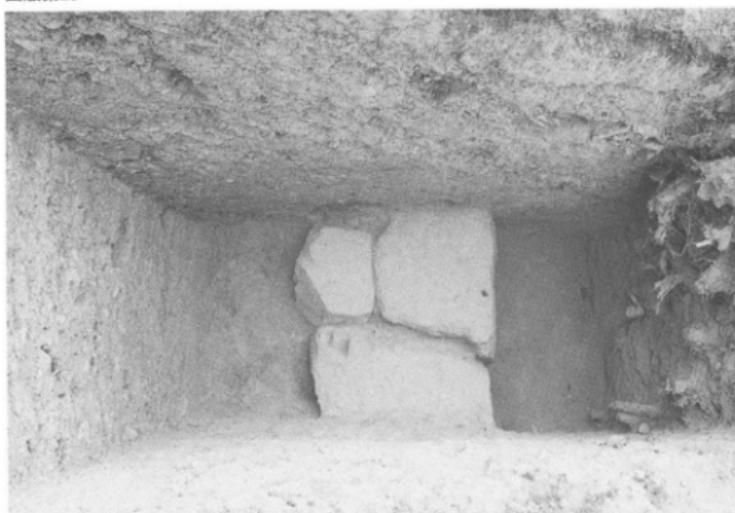


K地点 第1トレンチ 土壌1



L地点 西南部の下段壁面

図版第20



L地点 第1トレンチ 版築盛土に深く覆われた列石



L地点 第2トレンチ 列石折れ角とこれを覆う版築



L地点 第2トレンチ 列石折れ角と盛土端の置石



L地点 第6トレンチ 尾根稜線で岩盤を貫く列石

図版第22



L地点 第9トレンチ 列石折れ角とこれを覆う版塗盛土（西から）



L地点 第9トレンチ 同 上（北から）



二の木戸 石壇全景（東から）



二の木戸 背面石壇（基礎と背後に角石、西から）

図版第24



二の木戸 前面石垣西半部



N地点 段上平坦部トレンチ（右奥に折れ部）



一の木戸 石壙全景（左奥に列石、南から）



一の木戸 石壙全景（手前中央に列石、北から）

図版第26



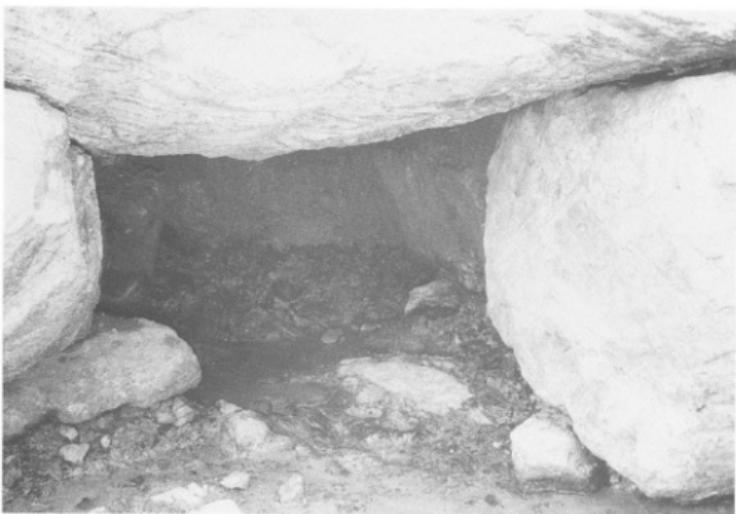
一の木戸 石壠前面石垣（中央に排水口）



一の木戸 石壠前面石垣の折部立面



一の木戸 石塁前面石垣の成層積み(左)と排水口(右)



一の木戸 石塁排水口内部

図版第28



一の木戸 石壙中央部背面石垣と吸水口（右手前）



一の木戸 石壙吸水口



一の木戸 石壙背面石垣の南端



一の木戸 石壙背面石垣の北端付近

図版第30



一の木戸 北側土壘部の列石と盛土内混石



一の木戸 第10トレンチ（手前）と石壘背面

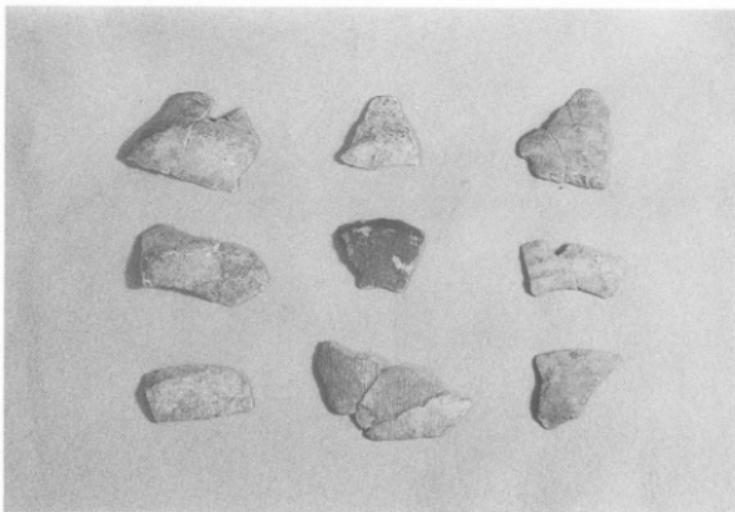


I 地点 最上段部出土の須恵器壺(5)

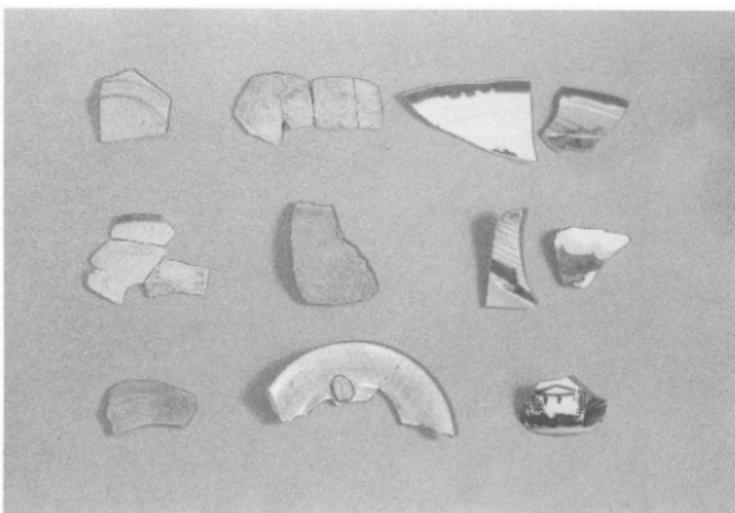


出土須恵器 左(1).右上(4).右下左(6).同右(7)

図版第32



一の木戸 石壙背後の流土から出土した平安時代土器片



古代末以降の遺物

あ　と　が　き

大廻小廻山城跡は約20年前に確認された新知見の神籠石系山城であり、謎に包まれたこの種の山城の解明が此度の発掘に期待されていましたが、明確に判明したこともあれば、さらに謎の深まった事項もあるようです。

私は、各種の発掘現場に立つ都度にその奥行きの深さを痛感させられるとともに、文化財保護行政の任務の重要性を胆に銘じるところです。

此度の発掘調査は対策委員の先生方並びに国・県のご指導と、地権者各位のご理解さらには直接作業に携わって下さった方々などの、多くの関係者の皆様方のご協力により無事終了しました。風雪の中での作業を思い出しながら、ここに感謝申し上げます。

発掘調査の成果はこの報告書にまとめましたが、大廻小廻山城跡の今後の保存のために、また謎多き古代山城遺跡の調査研究、さらには我々の共有財産ともいるべき郷土の文化財に対する理解と認識を深める一助となることを願うものです。

最後に、此度の発掘調査並びに報告書作成に精力的なとりくみをされた文化課の関係職員の労を多とします。

平成元年3月31日

岡山市教育委員会社会教育部
文化課長 八木正春

大廻小廻山城跡発掘調査報告 (付 図)

1. 大廻小廻山城跡地形測量図
2. 北谷頭 地形測量図
3. 小廻山 地形測量図
4. 三の木戸 地形測量図
5. 西中尾根先 地形測量図
6. 一の木戸・二の木戸 地形測量図
7. 一の木戸石塁 全体図

1989年3月

岡山市教育委員会

1:2,000

大廻小廻山城跡地形測量図

